

第12回地域医療貢献奨励賞 受賞者（2018年度）

小窪 正樹	北海道河西郡芽室町 公立芽室病院 院長
<p>昭和53年自治医科大学卒。昭和55年から道内の数多くの過疎地域や離島での勤務を経て、平成6年から公立芽室病院に外科医として勤務を始め、以来24年の長きにわたり芽室町の地域医療に従事してきた。下肢血管疾患を専門としており、年間の手術数は400例を数え、平成7年から現在までの下肢静脈瘤の症例は1万例を超えるなど、下肢血管疾患に悩む多くの地域住民の生活を支えてきた。専門分野にとらわれない幅広い治療として、消化器疾患や甲状腺疾患、末梢血管外科や乳腺疾患などの外科診療のほか、血液透析治療、抗がん剤などの化学療法、麻酔科診療も手掛け、特に外科手術においては、十勝圏域西部の過疎地域には不可欠の存在となっている。平成7年4月に副院長、平成23年に院長に就任、病院経営に手腕を発揮したほか、町民への講演など広報活動にも力を入れ、また、芽室町内総合保健医療福祉協議会会長として、町の保健・医療・福祉政策を総合的に推進してきた。各種健診や予防接種等の保健事業にも積極的に協力し、十勝西部における地域医療に大きく貢献、臨床医としての実績と人情味あふれる人柄により、地域医療を担う全道の医師から尊敬されており、北海道の地域医療を牽引してきた第一人者といっても過言ではなく、その貢献は誠に多大である。</p>	
柴野 良博	岩手県下閉伊郡岩泉町 済生会岩泉病院 院長
<p>昭和53年自治医科大学卒。平成元年、済生会岩泉病院に院長として着任。平成4年から開始した訪問診療や訪問看護は、在宅医療の推進が叫ばれている今の医療政策を先取りした先進的な取り組みとして高く評価されている。平成5年の新病院の移転新築を契機として、専門医師がいない中で自らが担当して腎不全患者の人工透析治療を開始、これまでの透析回数は延べ8万回を数え、地域への大きな貢献となっている。東日本大震災、平成28年台風10号による岩泉町の大水害においても、入院患者等の緊急搬送や施設入居者の受け入れなど、災害医療コーディネーターとして強いリーダーシップを発揮し、医療の確保は勿論のこと、保健、福祉との連携に大きく寄与し貢献した。人材育成においても、地域医療研修の協力病院としてこれまでに約140名の初期研修医を受け入れ、医師の養成にも大きく貢献している。30年の長きにわたり常に地域の実情にあった患者中心の医療を展開し、地域の医療を守るために情熱をもって取り組んできたことに加え、医師の少ない中で岩泉町の各種検診や予防接種、学校医などの保健予防活動にも積極的に協力するとともに、町の各種委員等を引き受け、保健行政の円滑な運営にも貢献してきた。急速に過疎化と高齢化が進んでいる中、岩泉地域の医療・保健・福祉を守る砦として、地域において必要とされるとともに、今後も活躍が期待される。</p>	

三澤 弘道	長野県小県郡長和町 長和町・上田市組合立国保依田窪病院 院長
<p>昭和56年自治医科大学卒。過疎地域である小県郡長和町に所在する国民健康保険依田窪病院に、初代常勤整形外科医師として昭和61年より診療にあたり、平成9年の診療部長を経て、平成14年には院長に就任。この間、地域の基幹病院として地域住民の医療ニーズに対応し、広域医療の要望にも応えるべく一次診療や救急医療に重点を置き医療の充実を図っている。また、専門に特化した整形外科は平成16年に県内初の脊椎センターを開設し、平成24年に脊椎外科手術5,000件を達成し、現在も脊椎手術に尽力している。病院長就任後は、院内の諸制度改革にも取り組み、住民健診をはじめとした保健予防活動から外来診療、在宅医療、救急医療、更に他施設とも連携して地域包括ケアを推進するとともに、出前講座や公開講座、健康推進教室等を開催し啓発活動にも努めている。後進の指導にも積極的に取り組み、臨床研修協力施設として初期研修医を地域医療研修で指導、医学部生の学生実習受け入れ、信州大学医学部運動機能学講座の臨床教授として学生への講義を行うほか、整形外科、特に脊椎外科においては、日本脊椎脊髄外科学会の脊椎外科指導を15名、日本整形外科学会脊椎内視鏡技術認定医を5名育成している。大学卒業後37年の長きにわたり県内病院において勤務し、へき地での地域医療の確保及び後進の育成に尽力し、住民の健康福祉の増進に多大な貢献をしている。</p>	
木山 佳明	兵庫県朝来市 公立豊岡病院組合立朝来医療センター 院長
<p>昭和54年自治医科大学卒。昭和63年、兵庫県のへき地である朝来市に所在する公立豊岡病院組合立梁瀬病院(現公立豊岡病院組合立朝来医療センター)院長として勤務し、現在に至るまで30年の長きにわたり、地域における医療の確保と向上、地域住民の健康福祉の増進に貢献している。朝来市を含む但馬地域は、医師不足が深刻化しているが、梁瀬病院において、少数の医師の体制で、朝来市全域の患者を受け入れ、外来や入院、訪問診療を実施するなど長年にわたり、地域に密着した医療を提供してきた。平成28年、病院再編による朝来医療センター誕生にあたっては、病院の方向性等を決める際の中心的な役割を担い、同センター院長就任後は、総合医療やリハビリテーション機能の充実、救急医療の提供、市内医師会や診療所等地域連携強化による在宅医療の推進を行うなど地域完結型医療の構築に向け尽力している。地域住民の健康管理面においても、各地域で健康教室を開催するとともに、住民健診を病院内で行う試みを行い、癌をはじめ多くの疾患の早期発見に努めてきた。また、同センターにおいて、積極的に兵庫県養成医学生・医師の受け入れを行い、地域医療に貢献できる有能な医師を数多く輩出、平成14年度から平成26年度まで自治医科大学の学外教員として5年生の学外地域医療実習を指導し、現在は岡山大学医学生や大阪府の研修医の地域医療研修の指導を行うなど、兵庫県にとどまらず、全国各地の後進の育成に力を入れている。</p>	

仲田 永造	岡山県高梁市 医療法人仲田医院 院長
<p>昭和47年関西医科大学卒。昭和47年に倉敷中央病院に赴任し、小児科医として勤務後、昭和62年8月に郷里の自院を継承すべく仲田医院の院長に就任。院長就任後は、地域では数少ない小児科医として、行政と連携しながら情熱と専門的知識をもって現在まで地域医療に取り組んできている。地域住民を対象とした在宅医療に関する市民公開講座、健康教育などの公衆衛生活動にも率先して協力し、医療情報の啓発活動、産業医、介護認定審査、特別養護老人ホーム配置医など幅広い活動を行っている。高梁医師会において理事、副会長を歴任後、平成26年6月に会長に就任、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会の会長も務め、切れ目のない医療提供体制の構築を推進、医師会・保健所等の関係団体と一丸となって地域医療構想の実現に向けた連携協力を進めている。医療従事者の確保が喫緊の課題であることから、市独自かつ全国の中山間地域の先導的な地域医療モデルの構築を目指し、「高梁市医療計画(平成30年策定)」の検討委員会副会長として計画の策定にも尽力した。併せて、大学等教育機関での講義、診療所での看護学生の実習の受け入れ、平成30年7月豪雨における避難所でのボランティア活動等、高梁市の地域医療に関する種々の活動においてめざましい指導力を発揮し、医師会会員はもとより、地域住民からの信頼が厚く、今後の活躍が期待されている。</p>	
詫摩 衆三	福岡県田川郡福智町 医療法人たくまクリニック 理事長
<p>昭和56年自治医科大学卒。義務年限終了後も引き続き、方城町立病院や赤池町立病院(現・福智町)の院長として地域医療に従事し、平成17年4月からは赤池町立コスモス診療所の所長として、内科系外科系の調和のとれたプライマリ・ケア医療に邁進。平成22年8月には、長年、福智町の地域医療に従事した経験をもとに、同町にたくまクリニックを開設し、自治医科大学で学んだことの延長として、地域医療を実践している。過疎化、高齢化が進む地域において、内科、外科、整形外科領域のプライマリ・ケアを実践し、糖尿病や高血圧等の生活習慣病予防治療、内視鏡やエコー検査による癌の早期発見、訪問診療や在宅みとり等の在宅医療に力を入れており、最後まで患者を診ることのできる、地域に密着した安心してかかれる家庭医として、地域の健康づくりに貢献し続けている。</p>	